

[成果情報名] 水抜き駆除実施後の湖沼におけるオオクチバスの生息状況

[要 約] 外来魚の水抜き駆除を平成 14 年に実施した徳良湖及び平成 15 年に実施した大沼において採捕調査を実施した結果、どちらの湖沼でもオオクチバスが採捕された。湖沼における外来魚の水抜き駆除は効果があると考えられるが、水抜き駆除後の監視体制も重要であると思われる。

[部 署] 内水面水産試験場・資源調査部

[連絡先] TEL0238-38-3214

[成果区分] 政

[キーワード] オオクチバス、水抜き駆除、生息状況

---

#### [背景・ねらい]

湖沼やため池で外来魚の水抜き駆除を実施しているが、水抜き駆除後の湖沼やため池における外来魚等の生息実態は調査されていない。そこで、過去に外来魚の水抜き駆除を実施した湖沼において、外来魚の生息状況を調査した。

#### [成果の内容・特徴]

1. 調査は平成 14 年に外来魚の水抜き駆除を実施した徳良湖及び平成 15 年に実施した大沼において行った。(図 1)
2. 各湖沼での魚類の採捕は、三枚刺網(規格:網長 15m、網丈 1.5m、中網目合 7cm、外網目合 45cm) 8 反及び延縄(規格:長さ 100m、33 針) 2 鉢を用いて行った。採捕結果を表 1 に示す。徳良湖ではフナが、大沼ではコイが多く採捕された。
3. 各湖沼におけるオオクチバスの体長組成を図 2 に示す。
  - ①徳良湖  
フナに次いで採捕尾数が多く、湖内には相当量のオオクチバスが生息していると考えられる。体長 200~225mm サイズに集中しており、同一年級(3 歳魚)の群であると考えられる。
  - ②大沼  
コイに次いで採捕尾数が多く、湖内には相当量のオオクチバスが生息していると考えられる。サイズは体長 110~140mm 台、210mm 台、230~240mm 台のおおまかに 3 つの群が見られる。
4. 3.の結果より以下のことが推測される。
  - ① 水抜き駆除を行った際に取り残してしまったオオクチバスの稚魚が大きくなり、今回の調査で採捕された。
  - ② 水抜き駆除を実施した後に、型のそろったオオクチバスが密放流された。
5. 湖沼における外来魚の水抜き駆除は効果があると考えられる。しかし、駆除実施後の湖沼でも多くのオオクチバスの生息が確認されることより、水抜き駆除後の監視体制も重要であると思われる。

#### [成果の活用面・留意点]

- キャッチ&リリース禁止等、水抜き駆除以外の外来魚対策を検討する必要もある。
- 水抜き後に湖沼を干した期間は、1~2 週間であった。例えば、冬の期間中ずっと等、湖沼を干すのにより長い期間を費やす必要があった。

[具体的なデータ]



図1 調査地点

表1 採捕結果

調査日		採捕方法	バス	コイ	フナ	ナマズ	その他
徳良湖	平成16年7月27日～28日	刺網	27	11	57	5	1
		延縄	0	0	0	3	1
大沼	平成16年8月30日～9月1日	刺網	14	22	3	1	0
		延縄	0	0	0	0	2

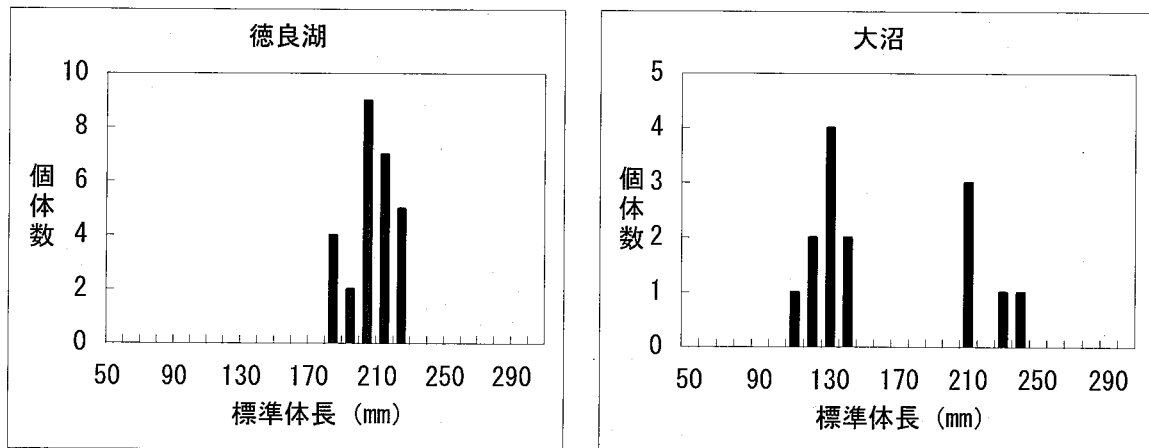


図2 オオクチバスの体長組成

[その他]

研究課題名：外来魚緊急総合対策事業

予算区分：国庫

研究期間：平成16年度（平成14～16年度）

研究担当者：河内正行

発表論文等：なし